



## 第1号（創刊号）

JKPとは？

教科横断型授業の今

## 授業の思い出①

吉田先生（化学）の思い出  
数学の時間に寝落ちした。その日に前の席の人が欠席しており、気づいたら数学の先生が前の席に座り、50cmの至近距離で見つめられた。恐怖を感じた。それから朝はコーヒーを飲んで通学ようになった。いい思い出は皆無。絶望。

## 授業の思い出②

飯野先生（政経）の思い出  
日本史の先生の授業が面白かった。話術が素晴らしかった。  
英語の授業の時に前から2列目でいびきをかいて寝ていたら千ヨーグが飛んできた。何が起きたのかさっぱり分からず、周囲は笑っていた。そこから叱責が長々と続いた。その方と数年前同じ職場になり、絶望した。

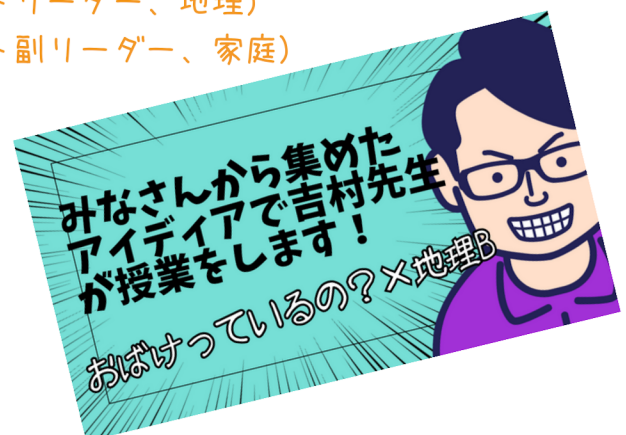
## JKPとは

JKPとは、授業（J）共創（K）プロジェクト（P）の頭文字を省略したものです。授業共創プロジェクトでは、教科横断的な授業作りを全ての教科・科目で実践、研究が蓄積され、日常的に実践されることを目指し、最終的には生徒の学習意欲の向上を目的としているプロジェクトです。今年度発足した先生たちの新プロジェクトです！！

私たちのプロジェクトはまずは生徒の皆さんから、日常の疑問を集め授業にしてみました。「おぼけているの×地理B」の授業を本プロジェクトリーダーの吉村先生を中心に、プロジェクトメンバー全員の教科の視点を加えた豪華版の授業を実施しました。授業を作り上げる難しさはありましたが、全員が楽しんで授業づくりに参加できました。生徒のみなさんの反応も好評で、本プロジェクトの意義を感じた活動になりました。

## 〈メンバー〉（専門科目）

- ・吉村（授業共創プロジェクトリーダー、地理）
- ・曾田（授業共創プロジェクト副リーダー、家庭）
- ・大賀（生物）
- ・清山（世界史）
- ・吉岡（化学）
- ・飯野（日本史）



# 教科横断型授業の実践！

## 特集記事

今回は教科横断型授業の実践の特集を行います。異色と言わざるをえない、物理×書道の授業とは？また、国語×地理で、内容をより深く学ぶことはできたのか？



## 字の重心は字枠の中心か

三島先生が担当されている物理の授業で、「きれいな字の重心」は「字枠の中心」にあるのか？というテーマで書道の内容に触れながら授業を行いました。生徒は漢字の重心がどこにあるのかを一つ一つ考え、物理の授業で得た知識を活用しながら生徒同士で相談しながら活動に熱中していました。

物理と書道という異色のコラボに挑戦をした三島先生からは「普段の物理の授業で得た知識を活用するために、様々な題材を考えたが、生徒の日常生活に密接に関連している漢字を取り上げたら生徒も授業に熱中するのではないか」とコメントをいただき、他校の書道の先生と授業構想を練っていました。

## 健士朗さんの感想

授業準備は忙しかったけど、気楽にできた。授業をするきっかけは、探究推進担当者研修で出会った書道の先生と意気投合したこと。そこから今回の授業の構想を練り始めた。生徒からも新しい問いが出てきて面白かった。完璧な授業構想ではなかったけど実際に授業をしてみると新しい発想が生まれた。教科横断のチャンスがあれば積極的に踏み込んでいきたい。



## 弓佳さんの感想

視点が異なると、文章の読み方が違うことに驚いた。地理は苦手なので、読み飛ばしていた内容も地理の教員はそこに注目するのかという新鮮さがあり、よかった。

今後は、自分だけの視点では気づかないこともあるので、他の教科の視点からさらに読解を深めていきたい。次回からは自分から教科横断の声掛けを他教科の先生にしていきたい。

## 岐阜にカミオカンデの謎

池永先生が担当されている現代の国語の授業で、教科書に「スーパーカミオカンデ」について触れられている評論文があり、地理の吉村先生から「スーパーカミオカンデの観測場所がなぜ岐阜県飛騨市神岡にあるのか」をグーグルアースを用いて解説をしてもらいました。地理総合で学習した大陸の移動やプレートの衝突などが関係しているなど、既習事項をもとに解説してもらいました。また、素粒子の特徴や今後の観測所の拡張についても説明され、国語の教科書だけでは読み取れない内容を掘り下げて授業を行いました。